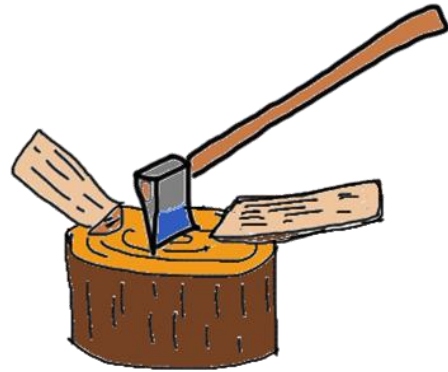
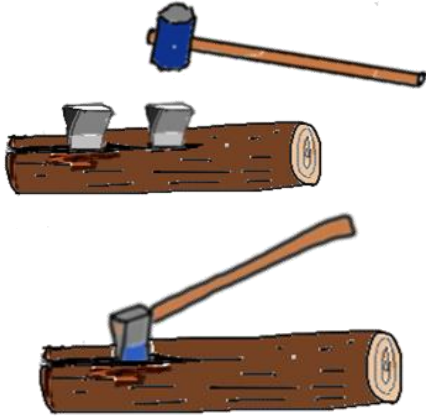


## 焚き火一考

➤ 先ずは「薪づくり」 斧、くさびを使った薪割りから油圧薪割機へ



薪割り台の前では物思いに  
ふけてしまう。斧を振る  
繰り返しは何故か興味深い。  
乾燥しやすいのは短い薪。  
30-40cmに玉切して斧を  
ふるう。それなりにシンド  
イ仕事だ。

長い薪が必要な炭焼きなど  
はクサビで割っていく。昔  
は木口が斧にて伐倒してい  
たガタガタの面では薪割り  
台に立たないのでこの方法  
にて薪割りした。

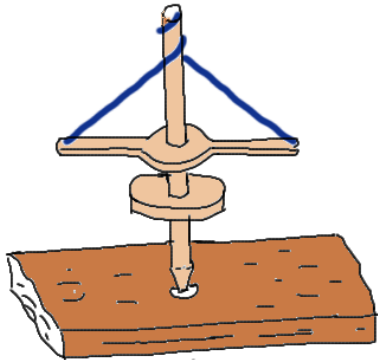


こんな木口側が両面空いている風通し  
の良いところで乾燥できれば理想的で  
ある。20%以下の含水率が良い薪と言  
われている。少なくともニシーズンは  
乾燥したい。春から夏にかけて薪作り  
を行い、次の年の冬に使うのが理想  
か？



近頃はこの大型油圧薪割機  
で楽させてもらってます。

➤ 火起こしもいろいろ



イベントなどで、子供たちが喜んで操作します。水平な長い柄をもって上下させると、支点が摩擦で熱くなります。そこへ、おがくずなど燃えやすいものを持っていくと火着くという次第です。

➤ 火打石とチャコールクロス/焚き火の火種 (チャコールクロスは焚き火で簡単に作れるよ)



①火打石でチャコールクロスに火花を飛ばす②麻ひもをほぐした火種でクロスを包み込み、息を吹き込むと火が付く



別の方法

ファイアスタータやマッチを使って、チャコールクロスに火をつける

## ➤ 焚き火をしよう



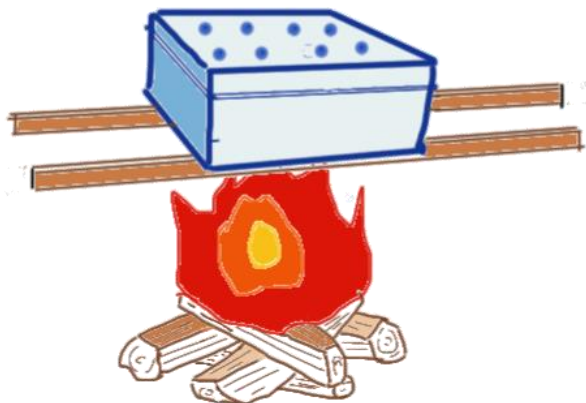
焚きつけを作るのは鉋の仕事。乾いた針葉樹の薪を削っていく。隠しておいた杉の乾いた葉を使うのも手である。面白いほど火付きが良い。

- 品質の良い薪を使う。ヒノキやスギ材は良く燃えるが火持ちが悪い。クヌギは少しずつ良く燃えて火持ちが良く、焚き火の材としては最高。
- 薪の品質とは何か・・・薪は伐倒後、初期乾燥が大切だ。葉枯らしや樹皮を剥ぐなどをすると早い。早く玉切して薪にして、通期の良いところで乾燥する。大気中の湿度が80%以上では乾燥はおぼつかない。大気中の湿度95%の薪の平衡含水率は25%である。水分があれば水分が蒸発するばかりで焚火の熱は上がらない。見るからに温かい焚き火は良く乾燥した薪によるものだ。
- 焚き火のマナー・・・自分で熾した焚き火は、最後の燠が白い灰に成るまで面倒を見て、責任を持って跡始末することが大切である。



赤く燃える燠（おき）を作るまでは焦って大きな薪を焚べないようにしよう。熾火（おきび）が出来たら、大きな薪を二本入れると良い。燃焼は、水分の蒸発→ガス放出→赤熱が基本。一本の薪の燃焼がもう一本の水分を蒸発させ木のガスを放出させそれに火が付く。この段階で木は炭化している。それが赤熱して熾となる。

➤ 焚き火でかざり炭を作ろう



菓子などが入っていたブリキ缶を用意します。上部に数個の小さい穴を空けて、缶の中に炭にしたいものを入れるだけ。それを焚き火の上で炭にします。

チャコールクロスもこの方法で作れます。